筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

9 条 の 会 ニュース

NO. 24 2010. 7

名称: 筑波研究学園都市研究所・大学関係 9条の会

郵便振替口座番号: 00120-4-501101

発行責任者:茅野徳治:TEL/FAX 029-857-6593

〒 305-0023 つくば市上の室 1829-1

筑波の研究所・大学関係9条の会 第10回講演と対話の集い

基調講演 「NPT再検討会議と平和の流れ、憲法9条」

川田忠明氏(日本平和委員会 常任理事)

話題提供・KEK(高エネ機構)での「核兵器のない世界を」署名の取り組み 稲垣隆雄氏 (KEK 九条の会)

> ・憲法九条が生きる日本へ「憲法九条土浦の取り組み」 福田勝夫氏(憲法九条土浦の会)

2010年5月23日(日)、大穂公民館にお いて標記の「第10回講演と対話の集い」 が開催されました。講師は、現在ニューヨ ークの国連本部において開催中(5/3~5/2 8日) の核不拡散条約 (NPT) 再検討会議の 開会式にも出席され、NYに広がる核兵器廃 絶の生の声や感動的な署名受取セレモニー の様子等が伝えられました。講演では「抑 止力」による安全という思想・戦略、普天 間問題、憲法が想定する戦争抑止の力等の テーマについて、豊富なスライドを用いて 大変明快な、説得力のある解説が展開され ました。NPT再検討会議がまだ開催中とい うこともあり、雨天にもかかわらず35人の 参加者が集まり、大変活発な討論がなされ ました。

開会の挨拶では、当会世話人の高松邦夫氏から、研究機関9条の会結成(2005年11月)以来の活動の中心と位置付けられて、次の活動の集会」について、次の機関における平和宣言運動に始まり、科学者として憲法九条への関わり、アジア・世界における九条の役割を考え、さらに宇宙と共おける九条の役割を考え、さらに宇宙と共に、科学研究の健全な発展に関

た、科学研究の健生な発展に関わる研究の自由の問題を議論してきました。 ここ数回は人類の生存に直接関わる問題と して、地球温暖化、エネルギー及び食料問題を扱い、また、教育についても、内在する問題の多様性の故に多くのことを考えさせられました。

この間、世話人会としては原水爆禁止20 08年世界大会で採択された、2010年NPT再 検討会議にむけてのアピール「核兵器のな い世界を」に賛同し、国際署名運動に協力 してきました。本年1月末には、沖縄普天 間基地問題に関連して、民意を全く無視し た内閣官房長官の発言について、直ちに遺 憾の意を伝え、名護市民の意志を正しく受 け止めて普天間基地の無条件返還の途につ くように、鳩山総理宛の「要請書」を提出 しています(2)。このような状況の下で、 第10回目となる今回の「講演と対話の集 会」では、再び平和の問題に立ち戻り、NP T核廃絶と世界平和の問題を主題とした基 調報告を川田忠明氏にお願いした旨が紹介 されました。なお、集会の司会は河村俊次 氏、閉会の挨拶は山本千秋氏が担当されま した。

[基調講演]

講演は、「抑止力、特に軍事的抑止力に よって安全を守る」という思想・戦略が現 在大きく問われており、この観点からNPT 再検討会議と普天間問題を見て行きたい、 という言葉から始められました。NPT再検 討会議においても、既に世界の大勢は「核



川田忠明氏

抑止力!によ って自国の平 和を守るとい う政策は有効 では無く、殆 ど拒否されて いるという実 態があり、被 爆国であるに もかかわらず、 いまだに米国 の核の傘から 抜けられない 日本政府の国 際的な問題点 が指摘されま

した。普天間基地問題については、日米共 通の理由付けとして唱えられている「抑止 力」ということの嘘とこの問題の本質につ いて説き起こされました。

また、私たちが持っている憲法が想定す る「戦争を抑止しする力」について、それ は軍事力によらない安全保障であり、世界 の秩序という観点からは仮想敵をもたない 脱軍事同盟の世界であり、現実に世界がそ の方向に進んでいるということが、ASEAN (東南アジア諸国連合) 共同体や中南米カ リブ海諸国連合、OAU (アフリカ統一機 構) からAU (アフリカ連合) 等についての 豊富な事例によって明快に示されました。 特に2015年に実現を目標にしているASEAN 共同体の目的は「平和、安全と安定」「非 核地帯」「貧困軽減と格差縮小」であり、 1976年のASEAN首脳会議で調印された東南 アジア友好協力条約 (TAC)の原則は「独立、 主権、平等」「侵略、武力による威嚇・行 為を放棄(まさに憲法9条)」「紛争の平 和的解決」「内政不干渉」「外国軍事基地 の禁止」であり、52ヶ国(世界の68%)が 署名しています。

今や世界の流れは軍事同盟ではなくて、 もっと別の安全保障の枠組みを模索している状況で、同じ軍事同盟の中でも、NATO等 では核兵器を撤去せよ、という動きもあり、 韓国も米軍を大幅に削減、オーストラリア でも労働党が政権を取って以来、イラク撤 退とか、いろいろ自主的な政策をとるよう な動きが進んでいます。こうした国際的な 客観情勢のなかで、日本と米国の軍事同盟 が一番質悪く今世紀まで生き残っているの ではないか、との講師の見解でした。それ では何によって安全を保障するかと云えば、 結論ははっきりしていて、それは軍事力で はなくて、日本の場合には日本国憲法の前 文に書かれている「平和を愛する諸国民の 公正と信義に信頼して、われらの安全と生 存を保持しようと決意した。」が、一見抽 象的に思えるが、現在の世界とアジアの現 実に非常にマッチした安全保障の基本方針 になると、主張されました。普天間問題に 関連して、鳩山政権が全く米国に対して交 渉出来ないでいるのは、沖縄の民意を下に 見て「日米同盟基軸」「日米安保絶対」に 固執しているためであり、普天間問題の解 決は「日米同盟基軸」という政策からの転 換にかかっているということでした。当面、 直ちに安保条約破棄といかないまでも、少 なくともこの「絶対」を止めて、沖縄ある いは国民の民意を第一に尊重する必要があ る、という至極もっともな意見が述べられ ました。

川田忠明氏は国際的な事情に大変明るく、80年来から度々国際会議に出席されて紹立。これまでにもジュネーヴの国連軍縮共 、国連軍縮特別総会にも行きました接 、国連軍縮特別総会にも行きましたを 、国連軍縮特別という事を目のたるとの運動がして接 、数では無くいう事をも大きなので を受けたとでもように、講を を受けたということできるように、 、講演のまとめとします。



1] NY目抜き通りを行進する1500人~2500人のパレード。 今回のNPTでは市民との行動が大きな成果をもたらした。

国連事務総長・市民との共同を訴える



「私はみなさんかどれたけ犠牲 を払って活動しているか知って います。勇気を持って、人類の 大志のために行動しつづけて いることを知っています」

「『核兵器のない世界』は、強い 意志があれば連成できるのです。 私は、核兵器禁止条約を核保有 圏に迫ります。政府を動かすのは、 みなさんの力が必要です。各圏 政府に迫りましょう〕



2] 反核運動の市民集会に国連事務総長が出席する前代未聞。 実に感動的な演説であった。

諸国政府と反核運動の共同が発展



5月2日、署名受取セレモニーの ために1時間もハレードの到着 を待ったかパクチェランNPT再接 討会職職長とデュアルテ国連上 継代表(軍練招当)





3] 30度を超す真夏日の下での路上署名受け取りセレモニー。 690万の署名の山。KEK、学研9条の署名もこの中に・・。

日本政府の恥ずべき姿

アメリカはじめ他面は外相クラスが参加。日本は存在感なし。



福山哲郎・外務副大臣 「すべての核兵器保有国 が、非核兵器国に対して 核兵器を使用しないこと (消極的安全保証)を要請



カバクチュラン議長「『核の命』の下にある圏には与えるべきではないという議論もある」(「朝日」5.9)

被操御なのに核兵器廃絶プロセスへの積極的な撮起がない

4] 原爆展が初めて国連本部ロビーで開かれたが、その開会セレモニーに日本政府の姿無く、代わりに志位委員長がテープカットの中央に招かれた。

[話題提供]

先ず、KEK 九条の会の稲垣隆雄氏により、 KEK(高エネ機構)での「核兵器のない世界 を」署名の取り組みについての報告がなさ れました。原子爆弾を誕生させた核物理学 者と、戦後いち早く起こった核廃絶の動き を想起し、その反省と願いの深さを思い、



稲垣隆雄氏

20 N 検議け署動ちっと話りた10 T 討にて名に上たのがま。年再会向の活立が、おあし20

09年12月から開始し、4月末現在で署名26 2筆、カンパ15,200円が集められたとの報 告がありました。さらに研究者の責任に関 連して、たった13年で、基礎的な物理現象 の解明から現実の原子爆弾が誕生した、と いう歴史的事実が知らされました。実際、 1932年に中性子が発見され、1938年のオッ トー・ハーン、リーゼ・マイトナーらによ るウラン核分裂の発見と、その後のプルト ニュームの発見から僅か数年の1945年には 三つの原子爆弾が生まれています。日本政 府は核兵器廃絶を言いながら、核の傘から 抜けられないでいます。依然として根強い 「核抑止論」を克服し、これからも一緒に 「核兵器のない世界」を実現するために力 を尽くしていきたい、との提案がありまし た。

続いて、憲法九条土浦の会 福田勝夫氏により「憲法九条が生きる日本へ「憲法九条土浦の取り組み」と題する話題提供があり、署名活動等の地域での日頃の取り組み



福田勝夫氏

Tに変がし発く無相のな点議行るののの動伝た展た理違でるを論く、発い味え。さめにをはべ確を必と言いて深ら活せに意詰なく認広要のが知のいれ動ては見めく一しげが趣印み大話まをい、のる、致、てあ旨象

に残っています。最近開港した茨城空港についても言及され、自衛隊との共用飛等かであるという特殊事情もあり、県知事等から、使われなくなった自衛隊機の展示をりました。さらに空港(自衛隊機用)のらりました。さらに空港(自衛隊機対応)からした。さらに空港(自衛隊機対応)からしたい2(同19~20機)への拡充の動きもあるようで、今後の動向が気になります。

(文責:上原 満)

【参加者からの感想】

○国連事務総長とNPT再検討会議議長の真剣な姿勢が印象的だったし、志位委員長が原爆展でテープカットの中央に立たされたくだりは笑った。

○普天間基地の問題がよくわかりました。

○核の傘の下でなければ日本の平和は守れないというウソがわかりました。

○米軍基地撤退の重要性と今後の日本の 進むべき方向を暗示された。

○NPT議長が署名を1時間も待って受け取った。開会挨拶でもそのことを冒頭に入れたということが印象に残った。

○講演の内容に、新しい面が出ていることを知りました。心強く感じています。

○川田さんの講演はとても勉強になりました。NPT再検討会議でNPOの運動が大きな力を発揮している話に感動し、勇気づけられました。

○政権交代で8割が基地撤去の話印象的だった。また、TAC(東南アジア友好協力条約)、AU(アフリカ連合)などの話もよかった。

○NPTの全般的な話がわかりやすくてよかった。日本では社会運動が国家を動かすことが信じられないが、外ではそのような力があるということに希望を与えられた気がする。

○核抑止論、軍事(米軍)による抑止論、 9条の抑止論との話がよく判った。日本が 核の傘にいるという核抑止論グループに参 加しているということは普段考えが及ばな い。これを説明されたことは非常によかっ た。

○大変有意義なご講演有難うございました。NPTへの署名運動の重要性、「抑止力」より「民意」等大変勉強になりました。 ○わかりやすく非常によかった。 ○世界の平和(運動)の流れについて学べた。視野の広い話であった。「抑止力」について考えることが多くあった。

○川田さんの話は鋭く迫力がありました。 教えられるところが大、分かっているから でしょうね。スバラシイ。

○NPT及び普天間についてまとまった 話が聞けてよかった。「抑止力」に論議が 集中したが正にそれが今の問題だと納得し た。こんなきちんとした話をもっと大勢の 人に聞かせたい。

2010年 憲法フェスティバル (5月3日) 第一回 茨城憲法川柳大会 入選作品より

「持ってます 暮らしと平和の **羅針盤**」 澤田 紀一 (筑波の研究所・大学9条の会)

「抑止力 一番いいのは 話し合い」 黒澤 一也 (産総研平和の会)

「しらじらし テレビ解説 消費税」 野﨑 浩司 (憲法9条の会つくば)

2010年6月30日現在

賛同者数 821名

事務局だより

○本会では「筑波研究学園都市研究所・大学 関係9条の会アピール」への賛同署名を広 くお願いしています。

http://peace.arrow.jp/tsc/i_home.php にアクセスしてください

○9条の会ニュース等の配布は、メールア ドレスを登録されている方には電子メール で、それ以外の方には郵送しております。

○「会」へのお問い合せは

・茅野徳治:電話・Fax: 029-857-6593

· e-mail:

岡田安正 spc873x9@comet.ocn.ne.jp 堀田博之 zkodaly.tsukubazn@gmail.